



令和5年12月に「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン（はじめの100か月の育ちビジョン）」が閣議決定されました。このビジョンは、子どもの誕生前（妊娠期）から保幼小接続期までの100カ月が生涯にわたるウェルビーイングの基盤となる最も重要な時期であるとし、この時期に大切にしたい考え方を示したものです。ウェルビーイングとは、人が身体的・精神的・社会的に幸せな状態にあることを指し、「幸せな状態」は、短期的な幸福のみならず、生涯にわたる持続的な幸福を含むとされています。また、このようなウェルビーイングの向上は「子ども自身が主体的に実現していく」といった視点が重要とされています。

本ビジョンには、大切にしたい考え方として、①こどもの権利と尊厳を守る、②「安心と挑戦の循環」を通してこどものウェルビーイングを高める、③「こどもの誕生前」から切れ目なく育ちを支える、④保護者・養育者のウェルビーイングと成長の支援・応援をする、⑤こどもの育ちを支える環境や

5つの考え方はどれも大切な視点なのですが、ここでは②「安心と挑戦の循環」に焦点をあてたいと思います。子どもは恐れや不安を感じた時に身近な大人がそれを受け止め、子どもに寄り添うことで安心感を得ることができ

社会の厚みを増すという5つが示されています。本ビジョンが子どものみならず、子どもとかわわる大人や社会のあり様についても言及されていることから、広い視野を持つて子どもの育ちを社会全体で支えていくことの重要性を説いていることがわかります。

きます。この経験の繰り返しを通して獲得される安心の土台である「アタッチメント（愛着）」が、自分自身や周囲の人、社会への安心感をもたらし、子どもはそれをもとに探索活動や遊びに向かうとされています。本ビジョンには、挑戦したいという子どもの気持ちを受け止め、その過程を見守る大人が傍にいて子どもは自分の世界を広げ、夢中になって遊び、自己肯定感等が育まれていくことが重要であると示されています。

ここでいう「子どもの挑戦」とは、大人に与えられるものではなく、自分で「選び」自分で「試行錯誤」し、自分で「結果を振り返る」ことであり、私達大人が日々の生活の中で行っていることと何ら変わらないことがわかります。子どもの「選択」も、大人の「選択」と同様に、価値あるものです。子どもの「選択」に過度に口や手を出していないか：そういった省察を大人がすることが大切ということをこのビジョンは教えてくれているようにも思

こころ根

サプライズで子犬を息子たちにプレゼントした4月。子犬を連れて帰った子どもたちの反応は、驚き嬉しさと子犬の可愛さと色々な感情を一瞬に感じたようでした。すぐに子犬との生活がスタートし、遊んだりお世話したり賑やかで家族が増えた喜びと責任を子どもたちと一緒に実感しています。

動物を飼うことの責任として『クレートトレーニング』があります。ペット用の移動用にもなるクレートは、災害時には避難所

こころ根

認定こども園小樽藤幼稚園
保護者 大口 まき

でクレートの中で過ごすことが多くなります。クレートがペットにとって安心できる場所になるように、遊んだ後はクレートでしっかり休ませることを繰り返してトレーニングします。最初、子犬は「くーんくーん」と鳴き、子どもたちも「鳴いているし可哀想だから出して」と私たちにお願いしてきます。

その度に、なぜトレーニングが必要なのか話すと、子どもたちは想像し、考えを巡らせ、自分たちの答えをそれぞれ教えてくれます。

園ではゆったりとした時間の中で、お友だちと園庭やホールでおもいっきり遊んだり、興味があることをたっぷり探

生涯にわたるウェルビーイングの基盤となる乳幼児期

藤女子大学ウェルビーイング学部子ども教育学科 教授 高橋 真由美



真駒内聖母認定こども園は、2024年8月1日、園舎を新築し、新たに幼保連携型認定こども園としてオープンしました。

当園は、緑豊かで四季折々に花の彩り、虫の声、木々の紅葉、銀世界と移ろう自然に恵まれた地にあります。上町公園を向かいに臨むロケーションは子どもたちにとっても、大人にとっても、最高のあそびと癒しの素材の宝庫です。子どもたちはこの豊かな自然を五感を通して季節の変化とともに全身で感じ、時に一人集中して、また、時に友だちと相談しながら、あそびに取り入れ過ぎず中で、さまざまな心模様を描いております。

昨年度7月までの旧真駒内緑小学校『まこまる』での一年間の仮園舎生活からピカピカの新園舎に戻り、ある年長児がクラスの大きな窓から園庭を眺め、虫の

縁溢れる中の真駒内聖母認定こども園

声聴いて、「何かホッとするね」とふと呟いたように、子どもたちも、保護者も、職員も、新たな園はどこか落ち着ける故郷に帰って来たような感覚がありました。

その空間の中に、乳児さんが居て、幼児さんが居て、大きい子は小さい子を気に掛け思いやり、そのような大きい子に小さい子は慕い憧れ、笑い、泣き、葛藤しながら過ごす毎日です。

そうして人の想いを知り、神さまの愛に包まれ、誰かを想い祈る心、やさしさ、人への感謝の気持ちを自分の中から他者に向けられるよう寄り添い見守り、心豊かに成長していけるよう願っております。

幼保連携型
真駒内聖母認定こども園
園長 肥田 光代

花川マリア認定こども園

いつも見守って下さるマリア様

保育教諭 兼板 裕子

5月はマリア様の月です。花川マリア認定こども園ではいつも見守って下さるマリア様に心を込めて乳児クラス、幼児クラスに分かれてマリア祭を行いました。マリア様のことを思いながら0歳児は足型でリンゴの製作、1歳児は手形で鳥、2歳児は丸を貼って花を作りお捧げをしました。幼児の縦割クラスは、ホールでマリア様のこころを歌い、アヴェ・マリアの祈りを唱え最後にマリア様に各クラスで作った冠、輪繫ぎ、お花をお捧げしました。マリア様のように優しく、強い心を持てるように願いを込めてお祈りをしました。そして各ご家庭には神父様から祝別していただいたマリア様の御絵のついたカードを持ち帰りました。カードには「みんなのおかあさんマリア様 みんなのために祈り下さるマリア様 どの人のことも大事にして忘れないでいて下さるマリア様」の言葉が書かれています。子どもたち一人ひとりの心の中にいつでもいて下さるマリア様のことをお家に帰ってからも思うことが出来るように願いを込めています。



笑顔いっぱい

さんぽみち

認定こども園倶知安藤幼稚園

分かち合う喜び

保育教諭 羽田 佳奈

幼稚園生活で子どもたちと一緒に過ごす時間の中には、子どもたちの成長を感じる瞬間がたくさん詰まっています。子どもたちの喜んでる顔、嬉しそうな顔、誇らしげな顔を見るたびに、こんなにも間近に子どもたちの成長を感じることでかけるかえのない日々の、幸せを感じながら過ごしています。それと同時に、通園バスや玄関での送迎時に保護者の方とお話しをする時間も、私たち保育者にとって大切な時間の一つです。その日の可愛かったエピソード、出来るようになったこと、頑張ったことを共に喜び、時には上手くいかなかったこと等の成長を分かち合い、「家庭とは違った姿で新しい発見がありました」「いつもありがとうございます」「藤幼稚園で良かった」という温かい言葉をいただき、私たち保育者にとって励みとなっています。また、保護者の方との会話の中で気付かされることも多く、私たち自身、保護者の方に支えられているのだと感じます。これからも各ご家庭との繋がりを大切に、子どもたちだけでなく保護者の皆様もそして職員も笑顔溢れる幼稚園でありたいと願っています。



認定こども園カトリック聖園こどもの家

繋がるやさしさ

保育教諭 谷川 桃佳

私は、昨年度2歳児クラスの担任をさせていただきました。乳児クラスでは、保護者の方がお迎えに来ると、お友だちや先生に向けて「みなさん、さようなら。」と挨拶をして帰っていきます。このような挨拶が自然と広まり、少し改まって張りきった様子で挨拶をする子どもたち。ある日、帰る時間になった2歳児クラスのA君が「みなさん、さようなら。」と言ったのですがその日は納得のいく挨拶ではなかったようで少しだけ落ち込んだ様子でした。そこに私が「A君、大丈夫だよ。A君の声、先生にはしっかり聞こえていたよ。」と伝えると、少し元気を取り戻したA君。その様子を見ていたお母様が、「最近うちの子、家で私に僕がいるから大丈夫だよ。って、優しく言ってくれるんです。先生方が日頃からそうやって声を掛けてくれるから、自然と大丈夫だよ。が出てきたんですね。」という心温まるお言葉をいただきました。

A君の「自分がしてもらって嬉しかったことを人のためにしてあげたい」という気持ちがとても嬉しかったです。今後も、一人ひとりの成長と頑張りを認め、日常の何気ない言葉に責任を持ちながら、子どもたちが安心して過ごせるよう関わっていききたいと思います。



認定こども園岩見沢天使幼稚園

心の中のマリアさま

主幹教諭 内田 純子

幼稚園の玄関には、いつもみんなを温かく見守ってくれているマリアさまがいます。登降園時にご挨拶をしたり、お出かけをする際に「いってきます」「ただいま」と声を掛けたり、生活の中で幾度となくマリアさまに出会う機会があります。

春になりお花を摘むと『マリアさまにプレゼントしたい』という人が増えてきます。教師と一緒に小さな花瓶に水を入れ、嬉しそうにマリアさまの足元に飾ります。そんな時には「マリアさま喜んでくれると思う!」「マリアさま笑っているかもね!」と嬉しそうに会話をする姿があります。目には見えないマリアさまの存在が、しっかりと子どもたちの心の中にある事を感じる出来事です。

お祈りに出会ったばかりの年少児も年上の人の姿を見て、自然とマリアさまの存在に気付き、いつしか『マリアさまがだいすき』な気持ちが芽生えるようです。挨拶をする気持ち良さやプレゼントを贈る喜びを味わう姿はいつも温かく、子どもたちは生まれながらにして善い行いをよく知っているのだと感じます。大人の促しだけではなく、子どもたちから自然と溢れ出る善い行いをこれからも大切にしていきたいと思っています。

